



# 農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.jp/nodai/>

第6号 平成22年6月1日

香川県立農業大学校

〒766-0004

仲多度郡琴平町榎井34-3

TEL 0877-75-1141

FAX 0877-75-3989



## 香川の農業・農村を支える 担い手にチャレンジしよう

校長 北山 信夫

今、世界では、発展途上国での人口増加や経済発展に伴って、資源やエネルギー、食料の需要が増え続けており、地球環境や食料問題などへの影響が懸念されています。

特に農作物は、食料としての役割から環境にも寄与するバイオ燃料としての活用も有望視されており、今後更に、国際的に農作物の需要が高まることが予想されています。

また、農業・農村の有する水源のかん養や美しい景観、伝統文化の伝承など、多面的な機能とともに、自然との共生の中で農作物の栽培や家畜の飼養等を通じて、生きがい、達成感等を感じることもできます。

このような地球規模の問題から個人の人間性に関することまで、幅広く大きな役割を果たすことができる農業・農村は、今後、ますます重要性が増すことから、より一層の発展を図る必要があります。

農業大学校は、農業・農村の活性化に向けて、次代の担い手の育成を行っている総合的な教育機関であり、近年の農業をめぐる情勢の変化に対応して、

担い手養成科は、平成二十年度からは学校教育法に基づく専修学校としても位置づけ、四年生大学への編入や奨学金の活用が受けられるようになっていきます。

また、日本農業技術検定を導入して農業の知識や技術の客観的な評価が得られるようにしています。

さらに、技術研修科では、今年度から、長期（一カ年）の就農実践研修に加えて、短期の就農準備研修の期間を三カ月から四カ月に延長し、定員を増員するなどの見直しを行っており、より多くの方々の期待に応えることとしています。

今後、より実践的な技術取得が図られるよう、先進農家での体験学習を取り入れたり、有機農業や食の安全安心、マーケティング戦略など新たな課題への積極的な取り組みも行うこととしています。

香川の農業・農村を支えようという意欲ある皆様に、是非、農業大学校で学んでいただき、より大きく発展して欲しいと思います。教職員一同、入学をお待ちしています。

（写真は、四月一三日に執り行われた入学式の模様です。）

## 活躍する卒業生・修了生

## 水口慎平さん

水口さんは、平成二十年度に担い手養成科を卒業して、(有)グリーンフィールドで勤めています。

(有)グリーンフィールドは、綾川町山田地区で、水稲二十二畝、小麦十九畝、ブロッコリー八畝、キャベツ五畝、アスパラガス(ハウス)四十アールの複合経営を行っている農業法人です。

水口さんは、野菜部門の要であるハウス栽培のアスパラガスを担当し、栽培管理から出荷調整までを任されています。

水口さんは、農大の学生時(有)グリーンフィールドの高畝アスパラガス栽培の収穫作業を見て、「こんな楽な栽培方法があるんだ」と思ったそうです。

それからは、(有)グリーンフィールドの法人経営にも関心が広がり、就職まで至りました。今では、アスパラガスを担当させ



てもらって、「さぬきのめざめ」の品種特性や栽培管理など、本格的な栽培方法等を勉強しながら、法人の一員として、アスパラガスの収益性を高めるため、日々の生育状況、収量、労働時間など記録・分析も任されており、息つく暇もないほど充実した日々だそうです。

将来は、実家の田んぼで、是非、アスパラガスを栽培したいと考えており、法人の上司の方に、いろいろと教えていただいていますと、意欲的な笑顔でした。

本年度から、本校二学年、野菜園芸コースの専攻実習を、(有)グリーンフィールドで受け入れていただき、水口さんに学生指導を担当していただいています。

## 三谷民雄さん

丸亀市飯山町で荒廃地になりかけていた自家農地の再生と農業の両立に挑んでいる三谷民雄さんを紹介します。三谷さんは平成十九年度の本校研修科修了生です。

三十六年間県内外各地で勤務され、平成十八年に勤めを退職されました。実家は農家で、水田五十アールと樹園地六十アールを所有していますが、両親の高齢化で管理が手薄になっており、退職の数年前からは、水田が休耕地になっていました。荒れていく農地を見るにつけ、荒廃してからでは遅いと感じるようになり、六十歳を目前にして自ら農業に取り組むことにしました。

しかし、農業の経験は手伝い程度でしたので、果樹栽培の基礎を学ぶ必要があると考え、本校の一年研修に参加されました。

研修期間中、自宅の老齢富有柿からでも販売できる高品質の果実生産ができたことで、カキ栽培にじっくり取り組む気持ちが固まったそ



うです。

その後は、新たな取り組みとして、富有柿に代わる品種やカンキツ品種の導入を検討されました。

研修を修了して二年が経過した現在、実践を着実に進めており、八十年生の富有柿を十五アール、カキと温州ミカンの新植園地三十アール、水稲三十アールの栽培管理に励まれています。奥さんもナバナを栽培し、JAに出荷しています。

三谷さんの住む地域は、中山間地の棚田や傾斜地樹園という、平坦地に比べ農地条件が厳しいところであります。退職後に親元で農地を守り、農業にロマンを持って取り組んでいる三谷さんの御活躍を御祈念いたします。

先進地視察研修報告

三月一日(水)～三日(金)

野菜園芸コース

野菜園芸コースは、京都府の京都府農林水産技術センター、京都青果株式会社、及び滋賀県のタキイ種苗研究農場を訪れ、京野菜の生産流通状況等について調査を行いました。

学生は、F1品種が主要となっている現在の野菜品種の中で、京の伝統野菜を守るため、各関係機関が連携を取り、産地の維持、ブランド化に取り組んでいるということに興味を湧かせていたようでした。

その中でも、農林水産技術センターでは、伝統野菜の種子保存の取り組み、京都青果株式会社では、京野菜を専門に扱う部門の設置や京都府の農産物ブランド認証制度の推進にも卸売市場が積極的に関わっていく体制、京都市内量販店への販売調査では、「すぐき菜」、「エビイモ」など、香川県で馴染みの無い品

目も多く並べられており、京野菜をブランド化していくための、より具体的な取り組みを見ることが出来ました。

本県野菜でも「三豊ナス」を代表とする地方品種や、「さぬきのめざめ(アスパラガス)」、「さぬき姫(イチゴ)」等、個性的な商材を売り込んでいくための参考になるほか、京野菜の推進において生産から流通までが一体となっている京都府の取り組みは、物流量の少ない本県の野菜振興の良いモデルになるのではないかと思われました。



花き園芸コース

花き園芸コースは東京大学大学院理学系研究科附属植物園(小石川植物園)見学と、東京都中央卸売市場大田市場および首都圏の主要な花店で、花きの価格等流通販売状況を調査しました。

小石川植物園は東京都文京区にあり、日本でもっとも古い植物園であるだけでなく、世界でも有数の歴史を持つ植物園の一つです。時期的に寒緋桜ぐらいいしか開花しているものはありませんでしたが、樹齢百三十年のソメイヨシノなど、もう半月遅ければ多くの人たちの目を楽しませてくれるであろうと想像を掻き立てられるような樹木がたくさんありました。

大田市場花き棟ではせりや仲卸を見学しながら、各地からの品物の出荷状況、価格等を調査しました。春彼岸直前の週末を控えた金曜日ということから活気にあふれており、学生たちも初めて見る大きな市場に終始圧倒されていました。出荷

されている品目は昨年の重油高騰の影響もあり、ランタンキュラス等低温で栽培できる品目が多かったように思います。花店は青山通りや主要な駅構内を中心に回りました。事前に香川県内の量販店等で調査した販売価格と比較して調査に臨みましたが、首都圏との価格の違いに驚きの声を上げていました。また、ホワイトデー直前ということもあり、センスの良いブーケ等もたくさん見ることができ、今後の生活の中で活用することができる美的センスを磨くことができました。



## 果樹園芸コース

果樹園芸コース四名は東京都中央卸売市場大田市場並びに都内の百貨店及び高級果実専門店六店舗において、果実の流通販売状況の調査を行いました。

大田市場では各産地から出荷された品物やせりの状況を見学しました。学生たちはその規模の大きさや輸入品の多様さに感嘆の声を上げていました。また、小売店舗における果物の陳列や販売促進方法、品質管理の仕方などについても学ぶことができました。接客店員の対応の細かさや商品知識の豊富さに、果物生産とあわせて販売の重要性を改めて感じました。

香川県の市場駐在の担当者や仲卸、販売店の係員からは、香川県の果物の特徴やその流通上の問題点などを聴くことができ、中央(東京)から見た本県の果物に対する評価の一端を感じることができました。この貴重な研修は今後の専攻実習や卒業論文をまとめる中に生かされることと思います。

れることと思います。



## 造園緑化コース

造園緑化コースでは、日本庭園の代表的な桂離宮、龍安寺、詩仙堂、銀閣寺などを、先進地研修として見学しました。

銀閣寺の入り口にあるツバキの見事な衝立状の生け垣、詩仙堂のサツキの玉ものの刈り込みのなめらかな曲線には、生徒達も感心していました。

二条城の二の丸庭園では、松のみあげ剪定を実際に見ることができ

きました。香川の剪定方法とは違ったフワツとしたやや厚みのある柵作りです。また、竹垣の修繕、土橋の改修なども大変参考になりました。

京都には、有名な庭園が集中しており、庭園の景観や形式、造営の歴史や経緯など、庭園を計画するときの参考となったと思いますし、その後、訪れた清水寺や大阪城公園では、広い敷地でありながら、ゴミ一つ無い行き届いた管理に、客を迎入れるといった気持ちが伝わり、今後の作庭実習の良い参考になると思います。



## 畜産コース

畜産コースでは、今回、佐賀県唐津市の有限会社中村牧場を視察しました。親子六人で、黒毛和種二千頭の肥育と二百頭の繁殖雌牛を飼育している大規模経営で、全国の銘柄牛の一つである「佐賀牛」の要件、BMS七以上が三十五%、A四以上が六十二%と非常に高い肥育成績を収め、全国肉用牛枝肉共励会(東京都食肉市場主催)で三年連続上位入賞する牧場です。

肥育前期に良質乾草を主体にした給与体系に加え、清潔な飼槽・給水機により病気がなく、健康で肥育後期の濃厚飼料多給に対応できる「腹づくり」で、肥育後期には多くの飼料を食べさせられることで、きめ細やかで風味豊かな牛肉に仕上げ、「佐賀牛」として高値販売されました。

また、機械化による作業効率の向上を念頭に、牛舎の通路、飼槽等を広くし、フォークリフトを利用した移動式自動給餌機等を活用して労



最後に、学問の神様「菅原道真公」を祀っている太宰府天満宮の「神牛」に香川の畜産の発展を祈願してきました。

このように、中村牧場では、牛への愛情を持って接することの大切さや観察力など、数多くを学びました。

働力の軽減に取り組んでいました。牛にストレスをかけないよう飼育スペースを広くし良好な環境を保ち、年間事故率 0.8% と低い水準を保っています。

**平成二十一年度  
校内卒業論文発表会**

平成二十二年一月二十二日、校内卒業論文発表会が行われました。

生徒たちは、一年間かけ調査し、取りまとめた内容を、より分かりやすく説明できるように、熱心に発表練習

習に取り組み、発表会に挑みました。発表会では、指導講師、本校教授、学生による採点の結果、果樹園芸コ

ース中山君と、野菜園芸コース星久保君、野菜園芸コース中原君、畜産コース多田君が優秀賞を受賞しました。その中の果樹園芸コース中山君

と畜産コースの多田君が中国四国ブロック発表会で発表することとなりました。

コース	氏名	課題名
野菜園芸	稲井 裕也	栽植密度の違いがレタス年明けどり作型の収量・品質に及ぼす影響
	河村 昭如	量販店販売に適したキャベツ優良品種の検討
	喜多 智泰	トンネルの大きさの違いがレタスの収量・品質に及ぼす影響
	佐々木 正文	耕うん時の碎土率の違いがレタスの生育・収量に及ぼす影響
	高木 健太	不織布トンネル被覆がレタス年明けどり作型の生育・収量に及ぼす影響
	中原 裕貴	葉先枯れの少ない夏どりネギの有望品種の検討
	藤倉 勇平	四季成り性種子繁殖型F1イチゴの促成栽培での利用
	星久保 誠	キャベツ大規模栽培における機械導入適正規模の検討
花き園芸	大川 和記	日射制御型自動灌水装置の鉢花および花壇苗への適応性の検討
	大倉 純	トルコギキョウの高温期(8月)出荷作型に向けた種子冷蔵技術の導入と適応品種の選定
	新宅 良平	カーネーションの冬期夜間低温条件下での電照処理が開花及び品質に及ぼす影響
	高橋 秀聡	播種時期がヒマワリの開花時期と切花品質に及ぼす影響
	馬場 誠	夏ギクの盆出荷作型における栽植密度の検討
果樹園芸	湯浅 大純	ランタンキュラス球根冷蔵処理中の糖度変化および冷蔵後の栽培条件が花芽分化に及ぼす影響
	武田 成男	モモなつおとめの摘果方法の違いが作業時間と果実品質に及ぼす影響
造園緑化	中山 修一	ブドウ「ピオーネ」におけるジベレリン早期処理が果房管理時間と果実品質に及ぼす影響
	篠原 聖平	心和む小庭園の作庭
	林 啓介	松盆栽育成と整姿による樹形の変化
	真鍋 吉孝	4号庭園の小改修と待合の設置
畜産	三谷 勇二	森林センター小庭園の作庭
	小倉 拓也	肥育牛の非破壊的肉質診断の実用性の検討
	多田 浩気	ビタミンA欠乏症における肉質および牛への影響
	新田 啓記	自然哺育における和牛子牛早期離乳の検討



**中国四国ブロック  
プロジェクト発表会**

平成二十二年二月一日、三日、山口県において開催された発表会では、果樹園芸コースの中山修一君が「ピオーネにおけるジベレリン早期処理が果房管理時間と果実品質に及ぼす影響」、畜産コース多田浩気君が「ビタミンA欠乏症における肉

質および牛への影響」の調査研究について発表しました。

当日は、中国四国地域の九校から十八課題の発表があり、他県の生徒も持ち時間を十分に活用し、熱心な発表会となりました。

交流会恒例の学校紹介では、花き園芸コース森君と畜産コースの鶴足君が、本校での学習・実習内容や学校行事について紹介しました。

### 平成二十一年度卒業式

三月四日、第三十三回卒業式が知事出席のもと盛大に行われ、担い手養成科学生二十三名と技術研修科研修生十五名が卒業しました。

北山校長から「農業社会は大きな変革期を迎えている。本校で得た知識や技術を生かし、困難な課題を乗り越えて欲しい」と式辞があり、真鍋知事からは「二層研鑽を積み、香川の農業・農村を担うリーダーとして力を発揮して欲しい」と激励がありました。卒業生を代表し、花き園



芸コースの大倉純さんが、農大ふれあい市の思い出などとともに「二間で得た体験や友情は人生の大きな財産です。この体験を心の支えにして、社会に第一歩を踏み出していきます」と誓いました。担い手養成科卒業生の進路は、厳しい就職事情でしたが、就農十名、JA等の農業関連会社四名、その他企業等九名でした。それぞれの道を歩み始めた皆さんの今後のご活躍を期待します。

### 学校行事予定

#### ○オーブンキャンパス

二十二年度高校卒業予定者(既卒者)や保護者を対象にした学校紹介です。七月三日(土)、八月二日(月)、六日(金)、二十五日(水)

<http://www.pref.kagawa.jp/noda/>

#### ○四国農学連スポーツ大会

(香川県観音寺市)

四国四県の農業大学校生が、野球バトミントン、バレー、卓球の試合に取り組みます。

#### 十月六日(水)

#### ○農大ふれあい市

学生が企画したバザーや生産物などの即売会、学校案内を開催します。十一月十三日(土)



### 人事異動

#### 【転出者・退職者】

- 宮内憲生 中讃土木事務所
- 清水康司 農業試験場
- 坂下 亨 小豆農業改良普及センター
- 吉田一史 東讃農業改良普及センター
- 馬淵 武 退職
- 久保隆廣 退職
- 安野照雄 退職
- 陶山勝利 退職
- 喜多靖子 退職
- 竹安智美 退職

#### 【転入者】

- 宮西恵子 庶務担当副主幹
- 牛田 均 学務・農場担当教授
- 氏家英樹 果樹園芸担当准教授
- 高橋秀彰 学務・農場担当准教授
- 高原稜夫 畜産担当教授
- 野田啓良 野菜園芸担当教授
- 次田 求 研修科教授
- 矢野 清 造園緑化担当教授
- 大倉 純 花き園芸教育助手
- 林 啓介 造園緑化教育助手
- 高原絵里 庶務担当